

7. 研修修了者からのメッセージ

『カナイシスタッド』〔取材記事〕

育成調教技術者養成研修（第5期修了者） 島崎 圭三

今回は北海道の浦河町にあるカナイシスタッドを訪ねました。現在、ここで場長をしているBTCの育成調教技術者養成研修（BTC研修）第5期修了の島崎圭三さんにお話を伺いました。カナイシスタッドは通いで軽種馬育成調教場（BTC調教場）を利用し、馬づくりに励んでいます。どのような理念のもとで場長として指揮を執り、馬を育てているのかお伺いしてきましたのでご紹介します。

馬に関わりたくて

「なぜ競走馬の世界に足を踏み入れたのですか？」この質問に帰ってきた言葉。それは「牧場で働きたかったのと、北海道に憧れを持っていたからかな・・・」と言う、私の予想をある意味で裏切るものでした。てっきり、どうしても馬の仕事がしくてこの世界に入ったのかと思っていたのですが、お話を伺ってみるとどうやら違う様子。

転機は大学での就職活動にありました。「長野県で僕のおじさんが牛の仕事をしていて、よく遊びに行っていた。そのころから牧夫業に憧れていたんだけど、大学での就職活動の時にその世界に入ろうと本格的に決めた。当時はおじさんも牛をやっていたし、特に馬の仕事に限っていた訳ではなかったんだ」。

ふむふむ・・・ではなぜ馬に??「大学の同級生に実家で馬の生産をやっている友人がいて、BTCの育成調教技術者養成研修があるのを教えてくれたんだよね」。なるほど。どこからきっかけが見つかるか分からないものなのですね・・・

このようにして馬の世界に踏み入れることになった島崎さん。第5期生として研修に入講し、憧れの地である北海道で、憧れていた職業の第一歩を踏み出します。

研修にて

当時は今とは大分雰囲気の違い、かなりスポ根的な研修だったようですが、食らいつきしがみつかながら馬についての勉強をしていた島崎さん。入講当時全く馬に乗ったことが無く、まっさらな状態でスタートしたため、最初は馬に乗ることにも恐怖感があったそうです。馬乗りが上手になりたい一心で、日々どうすれば上手くなるか考えながら乗っていくことにより、恐怖感がある中でも少しずつ自分が成長し“馬”が解かるようになっていくことが励みになり、恐怖や不安も乗り越えられたと話していました。特に研修中に心に残っている言葉は、「馬上は地上の天国」というS教官の教えてくれた言葉だそうです。確かに、馬に乗ったことのある人しか味わえない天国なのは間違いないです。そして就職した後に身にしみたのは基本が1番大切であるということで、馬の仕事をしていて壁にぶち当たった時、島崎さんは基本に立ち戻って考えるそうです。「結局、基本が出来ていなければ、戻るところが無くて答えを導き出せないと思うんだ」と。だからこそ、BTCの研修で学んだ基礎や基本がとても役に立っていると話していただきました。そこで付け加えたのが、「ただ、各牧場にあるスタイルや方法に馴染むのも大切だけだね」という言葉。研修で学んだ基礎にも、働いていく上ではもちろん応用が必要不可欠だと言います。やはり柔軟な考え方ができるこ

とは重要なのでしょう。

重要なのは・・・

これまで17年間、馬に携わってきた島崎さん。「特に印象に残っている馬はいますか？」との質問には、「僕にとってはこれまで携わってきた馬全てが大切な存在であったし、印象に残っているから、これはっていう馬はいないかな。グレードレースを制した馬にも携わったことがあるし、勝ち上がることができなかった馬にも勿論携わってきたけど、どの馬もいろいろなことを教えてくれた」。この言葉の通り、調教を見させていただいた時には、どの馬にも愛情を持って接している姿が印象的で、また、強くなって欲しいという気持ちがひしひしとこちらに伝わってくる様でした。この気持ちが、場長として働いているカナシスタッドの調教や労働環境にも大きく反映されています。

また、「牧場で場長として働くにあたって、特に気を使っている点は？」との質問には、「労働環境には特に気を付けています。馬の世話や調教を付けるのは人間だから、労働時間が長くなりすぎたり忙しすぎたりして余裕が無くなると、良い調教も出来なくなる。HAPPYな人がHAPPYな馬をつくれると思うんです」。だからこそ、働く従業員のことを一番に考えると話します。なるほど、ここも納得。従業員の皆さんを見ていると本当に楽しそうに、馬と遊んでいるかの様に調教や世話をしていました。「好きで始めた馬の仕事を嫌いになって欲しくない」という、島崎さんの熱い気持ちが全面に打ち出されています。

また、どのような馬を育てていきたいかと訊ねると、「自然味のある馬」との答えが返ってきました。「人間の言いなりになる馬ではなく、本来の“馬らしさ”を持った競走馬を育てていきたいですね。もちろん、人間と馬の最低限のマナーは教えなければいけないけど、馬が馬らしくあるように」。

調教でも、BTC調教場では、馬の精神面を鍛えるのに非常に役に立ち、馬も人も気持ちよく走れる良い調教が出来ことから、グラス坂路馬場を使用したり、分場では1歳・2歳馬を野外騎乗し倒木など自然の障害物を越えたりと、多彩なメニューを組み込んで馬の調教を行っているそうです。精神的にも肉体的にも強くて丈夫な馬を作るために、自然界の法則に従った調教が出来るようにいつも考えているとのこと。例えば、馬は本来どの様に暮らしているとか、どの様な性質を持っているかなど、馬の本来の姿を無くさないことが大切だと話していただきました。また、病気や怪我も出来る限り人間が手を貸さず、馬の持つ治癒力を引き出し自然治癒に努めるということでした。馬が「走りたい！！」という気持ちを持つように育てて行きたいと、熱心に話していただきました。

プライベートでは

ドライブとショッピングが趣味という島崎さん。「休日は家でじっとしていることはほとんど無い」というくらい行動派のようです。休日は馬から離れた趣味を楽しんで、仕事に備える、これが島崎さんのエネルギーの源とのこと。「休日にリフレッシュして仕事に備えるのですね？」と言うと、「リフレッシュと言う言葉が僕に合うか分からないけど、何せいつでもフレッシュだからね！」との返答がありました。どれだけパワフルなのでしょう・・・(笑)楽しく仕事をするには楽しみを見つけるのも大きなポイントのようです。

終わりに

今後の展望について訊ねてみると、「馬の業界がもっと拓けたものになるように努力していきたい。競馬ファンの方が気軽に牧場を見学できたり、馬に触れ合ったりできるようにしたい。ウチはいつでもオープンだから、どんどん競馬ファンの方に馬を見に足を運んでもらいたいと思っています」と話していただきました。拓けた業種になる = 馬業界がもっと活気づき良くなるということを願っている様です。

また、馬の業界で働いている方々が、例えば競馬で勝った賞金の一部が寄付されるようになったりと、『社会に貢献できている』と実感できるような環境作りを目指したいということでした。

今回、取材させていただいたカナイシスタッドでは、労働環境の改善・調教理論など様々なお話を伺うことができました。非常に雰囲気の良い、従業員の皆さんの笑顔が絶えないこの牧場から、“馬らしい”素晴らしい走りを見せてくれる競走馬が多く誕生することを楽しみにしたいと思います。

(平成23年10月取材 M.Y.)

